

EL DECOR

エル・デコ

no.152 October
2017

25
YEARS

別冊付録

Francfranc
A Life of Color

安藤忠雄

最新の住宅作品を
エル・デコだけに公開!

最新住宅提案

おしゃれな人は、 アートと暮らす!

アスティエ・ド・ヴィラット

ソフィア・コッポラ / マリー=フランス・コーエン

10



CTRLZAK

コントロールザック

イタリア人のカティア・メネギーニ(右)とギリシャ人のタノス・ザコポラス、ふたりのアーティストが設立したデザインスタジオ。東洋と西洋が融合したハイブリッドな作風が人気。

ネパールらしい伝統的な柄とヨーロッパのモチーフが融合!

セレッティの食器をはじめ、東洋と西洋のモチーフなど異なる文化が融合した作品で知られるCTRLZAKによる「クロス ミー ノット」。ここではチベットやネパールの伝統的な柄とヨーロッパの文化特有のモチーフを組み合わせている。伝統と技術、そしてデザインが生み出したハイブリッドなラグに。



Martino Gamper

マルティノ・ガンパー

北イタリア出身、現在はロンドンで活動。デザインとアートの領域を行き来し、2007年に不用となった椅子を使い、100日で100個の椅子を組み立て直した展示が話題に。

photo: ANGUS MILL

立体感を職人の技術で表現した「ウェフトトゥーワーブ」

今年のミラノ・デザイン・ウィークで発表された新作。マルティノ・ガンパーが「ウェフトトゥーワーブ」で試みたのは、カーペット職人の技を最大限に引き出すこと。糸がもつ自然な色を生かしながら、さまざまな編み方を組み合わせ、3Dトリックのようなデザインに仕上げた。3つのバリエーションがある。



Chiara Andreotti

キアラ・アンドレアッティ

ミラノのドムスアカデミーを卒業後、リッソーニ・アソシアティでさまざまなクライアントを担当。現在は独立して多方面で活躍。期待が集まる注目の若手デザイナー。

photo: FEIPO SAMBERGH

モロッコとジオメトリの融合「プリミティブ ウィーブ」

CCタピスが太鼓判を押す若手デザイナーのひとり、キアラ・アンドレアッティ。ハンドクラフトによる詩的なタッチを生かした「プリミティブ ウィーブ」コレクションは、モロッコのベルベルラグや20世紀のヴェネチアのジオメトリックなグラフィックにインスピレーションを得てデザインされたもの。



Faye Toogood

フェイトゥーグッド

ブリストル大学卒業後、雑誌のスタイリングを経験し、ロンドンにスタジオを設立。家具のデザインからインスタレーションまで幅広く手がける。素材を生かした創作で知られる。

photo: TOM JOHNSON

人の手が生み出す繊細な仕事を詰め込んだシックなラグ

キルティングやアップリケ、ステッチなど、さまざまなテクニックが使われたシックなコレクション「インベントリー」より。上の作品「ケージ」は、鉄の網グリルを思わせるダイヤモンド形の格子が特徴。エコフレンドリーなウールとシルクを用い、手編みと手織りを組み合わせている。

だ。ふたりはミラノに移住し、ミラノ工科大学にデザインを学びに行ったカントーニがローラと出会ったことで、CCタピスを設立した。彼らがバリではなく、ミラノに移った理由はなんだろうか。「バリは購買力があり、消費する街。一方、ミラノは生み出す街だと思っただけです。メゾン・エ・オブジェと一般市民の間には乖離がある。でも、ミラノ・デザイン・ウィークは市民も参加する街をあげての国際的イベント。ミラノはデザイン界のハブ的な存在で、多くの建築家やデザイナーと知り合える街です。若手メーカーの提案に巨匠デザイナーが耳を傾けコラボが生まれるチャンスもあるのです」とカントーニ。

彼らはデザインを依頼する際、CCタピスを理解してもらうことだけに集中し、デザイナーには有名無名を問わず、自由に創作してもらうという。デザインやカラーに関するリクエストも一切しない。製造をネパールにしたのは、クオリティの高さと小規模生産が可能なこと、そしてウールの入手から生産まで一括して管理できるから。現地には自社工場も設立した。製品の40%は化学薬品を使用していないことも特徴で、自然なウールの濃淡をデザインに合わせて組み合わせている。山間部に工場があり、学校に通えない工場労働者の子供たちのために非営利財団「CC for Education」を作り、彼らの暮らしも援助している。ミラノでのクリエイションにこだわりながら、その先のもの作りに挑むCCタピスから目が離せない。